

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について（公表）

塩尻市教育委員会

1 趣 旨

本年4月22日に実施した「平成26年度全国学力・学習状況調査」について、国及び県の調査結果の公表があり、これに基づき、本市の結果を分析しましたので、その概要をお知らせするものです。

2 調査の概要

(1) 調査の目的及び方式（文部科学省）

- ア 義務教育の機会均等とその教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 以上のような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年と実施した学校数・児童生徒（小中学生）の人数

対象学年	対象学校数	学校数（実施率）	実施人数
小学校第6学年	9	9（100%）	594人
中学校第3学年 （両小野中学校を含む）	6	6（100%）	626人

(3) 調査の内容

- ア 教科に関する調査
 - (ア) 主に「知識」に関する問題を出題（国語A、算数・数学A）
 - (イ) 主に「活用」に関する問題を出題（国語B、算数・数学B）
- イ 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

3 調査結果

塩尻市教育委員会は、市教育センターを中心に市校長会教育課程編成研究委員会と連携し、今回の全国学力・学習状況調査の趣旨を踏まえ、結果を分析し、その考察を行いました。

(1) 教科に関する調査結果の全体概要

- ア 小学校第6学年は、国語A・B、算数A・Bそれぞれにおいて、全国及び県平均正答率を上回る結果でした。
中学校第3学年は、国語A、数学Aは全国及び県平均正答率をやや上回り、国語B、数学Bは県平均をやや上回りましたが、全国平均をやや下回る結果でした。
- イ 全国の傾向と同様に、「主として知識に関する問題A」は、「主として活用に関する問題B」より、平均正答率は高い結果となっています。

(2) 各教科の調査結果と今後の対応の概要

ア 小学校（国語）

主として知識を見る「国語A」の調査結果を見ると、基礎的な内容について概ね理解できていると言えます。その上で、「国語B」の調査結果を見ると、「書くことや書く力」、「読むことや読む力」、「言語についての知識・理解・技能」などにおいて高い活用力を身につけています。これは、国語への高い関心・意欲・態度によって支えられていると思われます。

今後は、より確かな知識を身につけ、豊かな言語活動を通して「話す・聞く力」も含めて活用力を一層高めていくことが望まれます。

イ 小学校（算数）

主として知識を見る「算数A」の調査結果を見ると、「数量や図形についての知識・理解」など基礎的な力をまんべんなく身につけてきていると言えます。活用力を見る「算数B」に関しては、高めてきた数学的な考えを基に、「数と計算」、「数量関係」など、いずれの領域においてもバランスよく力をつけていると言えます。

今後は、算数のこうした力を、中学校の数学の学習に段差なく結びつけていくために、小中一貫のカリキュラム編成や指導方法の工夫など、連携した取り組みが望まれます。

ウ 中学校（国語）

主として知識を見る「国語A」の調査結果を見ると、基礎的な内容について概ね理解できていると言えます。活用力を見る「国語B」も含めて、「書くことや書く能力」が高く、「読むことや読む能力」や「話す・聞く能力」が低い傾向が見られます。

「国語B」では、「国語への意欲・関心・態度」が高く、記述式問題の正答率も高いので、今後は、その特性を生かし、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域において計画的で質の高い言語活動を展開し、活用力を高めていくことが必要です。

エ 中学校（数学）

主として知識を見る「数学A」の調査結果を見ると、基礎的な内容について概ね理解できていると言えます。「数学A」に加えて「数学B」においても、「資料活用能力」や「数量や図形についての知識・理解」が高い傾向が見られます。

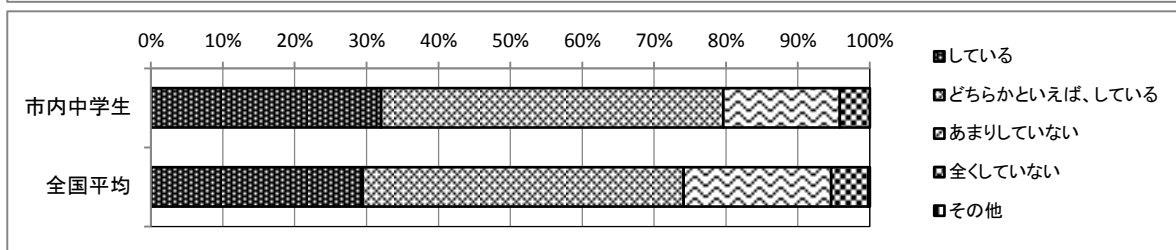
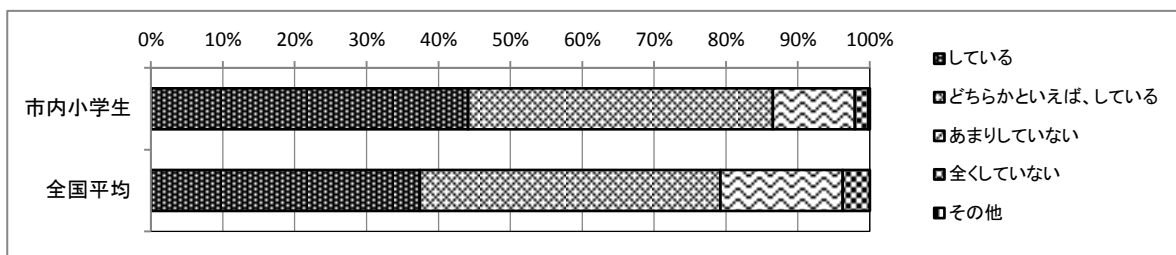
今後は、「数学B」において正答率の低かった、「数と式」や「関数」をはじめ各領域で、思考過程を記述して表現し、それを基に相互に学び合うといった課題解決的な学習を重ね、数学的な見方や考え方を高め、活用力に結びつけていくことが必要です。

(3) 生活習慣等に関する児童生徒質問紙調査結果の実態

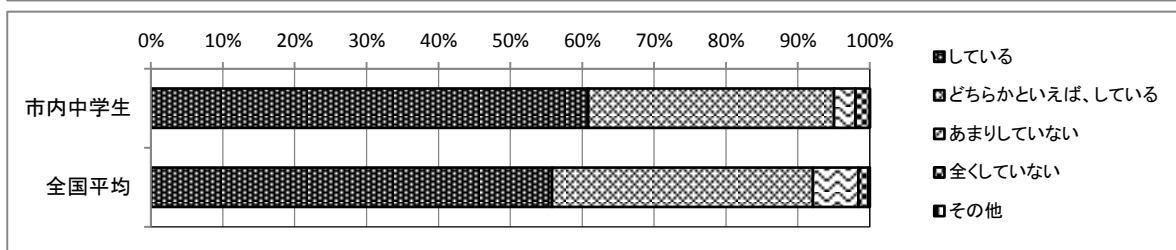
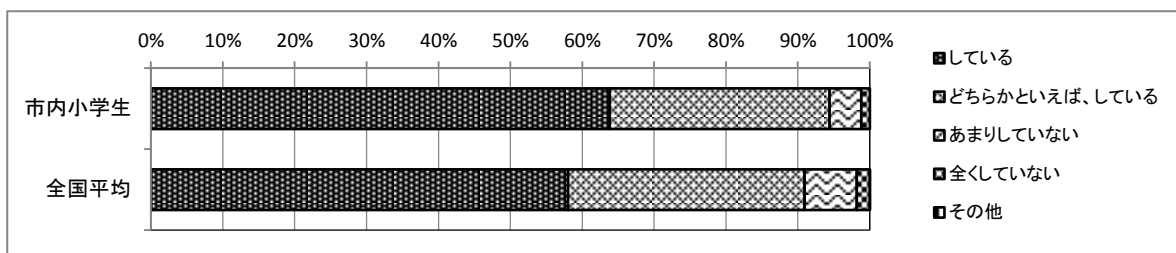
ア 塩尻市の重点施策「早ね早おき朝ごはん・どくしょ市民運動」の観点から

(ア) 「早ね早おき」に関する項目

【毎日、同じくらいの時刻に寝ているか】

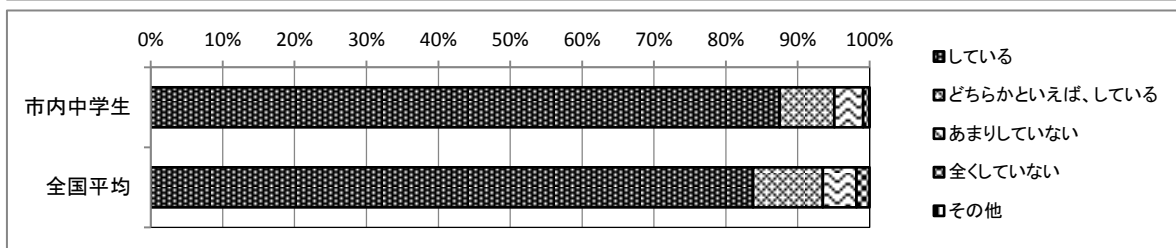
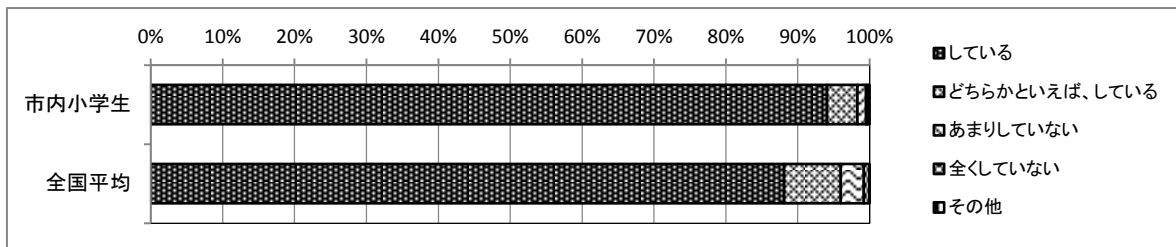


【毎日、同じくらいの時刻に起きているか】



(イ) 「朝ごはん」に関する項目

【朝食を毎日食べているか】

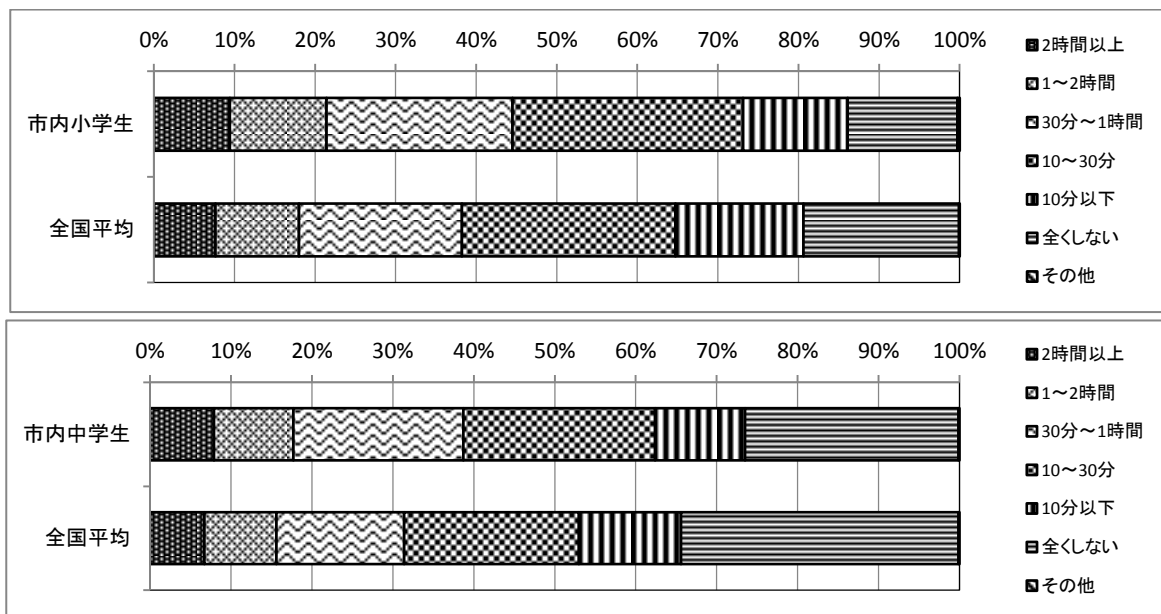


「早ね早おき」については、就寝時刻、起床時刻は明確ではないが、それぞれ8割から9割以上の児童生徒が規則正しい生活をしています。全国平均と比較しても、良好な傾向であることがわかります。

「朝ごはん」についても、「している」「どちらかといえば、している」は小学生98.3%、中学生95.1%であり、元気っ子応援事業など様々な場で、重点施策について呼びかけてきた成果が表れていると考えられます。

(ウ) 「どくしょ」に関する項目

【平日の読書時間】

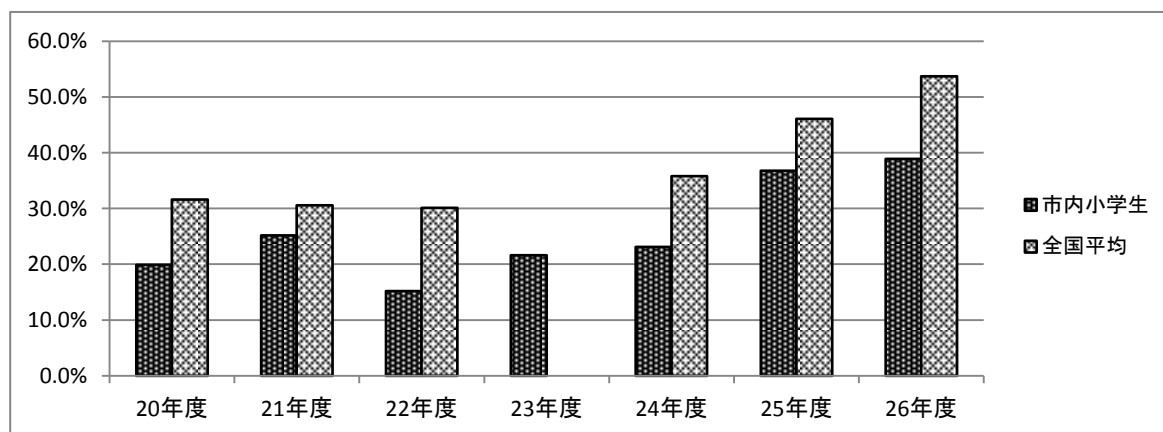


平日の読書時間は、小学生は「2時間以上」が昨年度より増加し、「30分以上」でみると、小中学生ともに昨年度より増加傾向にあります。全国と比較しても小学生44.5% (全国38.2%)、中学生38.7% (全国31.4%) といずれも6～7ポイントほど高くなっています。塩尻市の重点施策に基づいて、各校で「全校一斉読書」の時間を設けたり、学校図書館司書を配置したりするなどの取り組みが成果として現れてきていると考えられます。

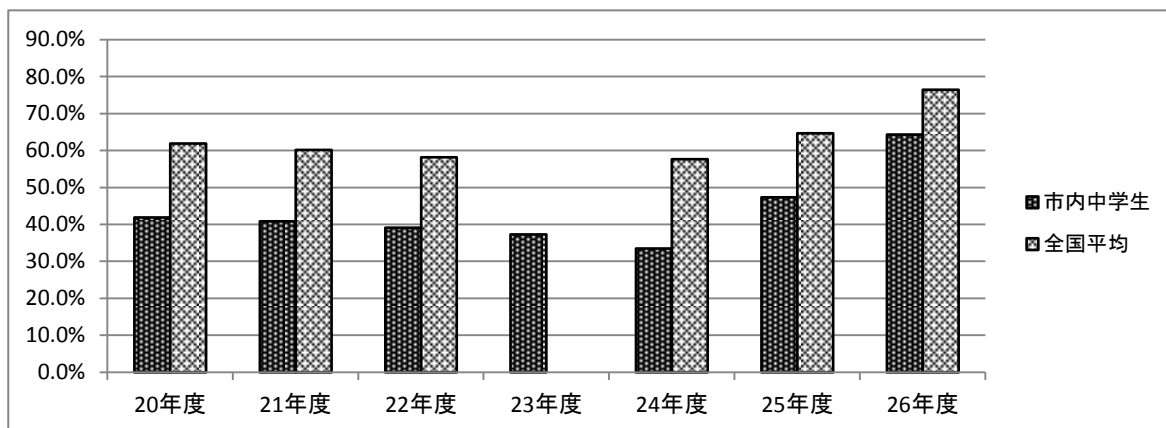
イ その他の観点から

(ア) 携帯電話、スマートフォン等の所持

【小学校：携帯電話等所持率】



【中学校：携帯電話等所持率】

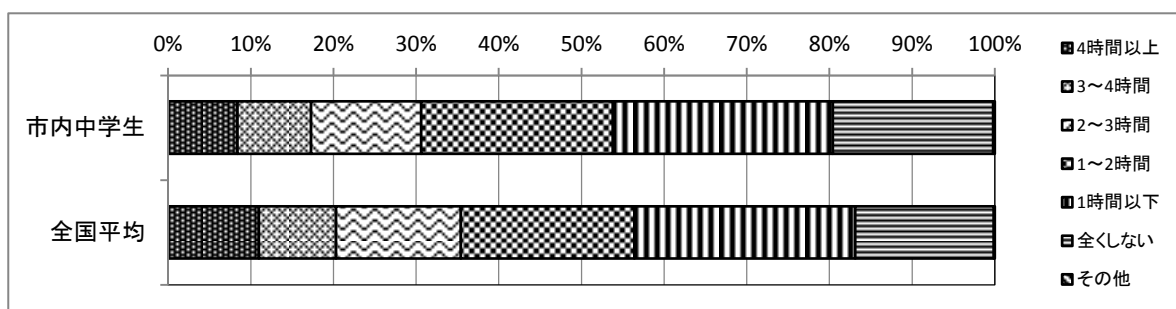
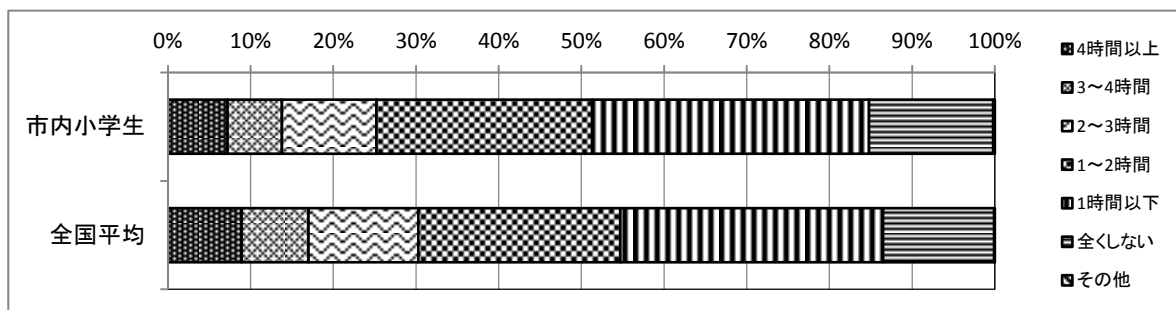


※平成23年度は東日本大震災により、全国平均は未集計です。

携帯電話等を所持している本市内児童生徒は、小学生が平成20年度から少しずつ増加し、昨年度はやや大きな増加（13.7ポイント）でしたが、今年度は2.1ポイント（全国は7.6ポイント）の増加に留まっています。中学生は、20年度から減少傾向にありましたが、昨年度はやや大きな増加（13.9ポイント）となり、今年度はさらに上回って増加（16.9ポイント）しており、中学生の所持率の急激な増加が気になります。現在の社会の状況に応じた傾向と考えられますが、今後とも情報モラル教育を継続していく必要があります。

(イ) 「テレビゲームの使用時間」

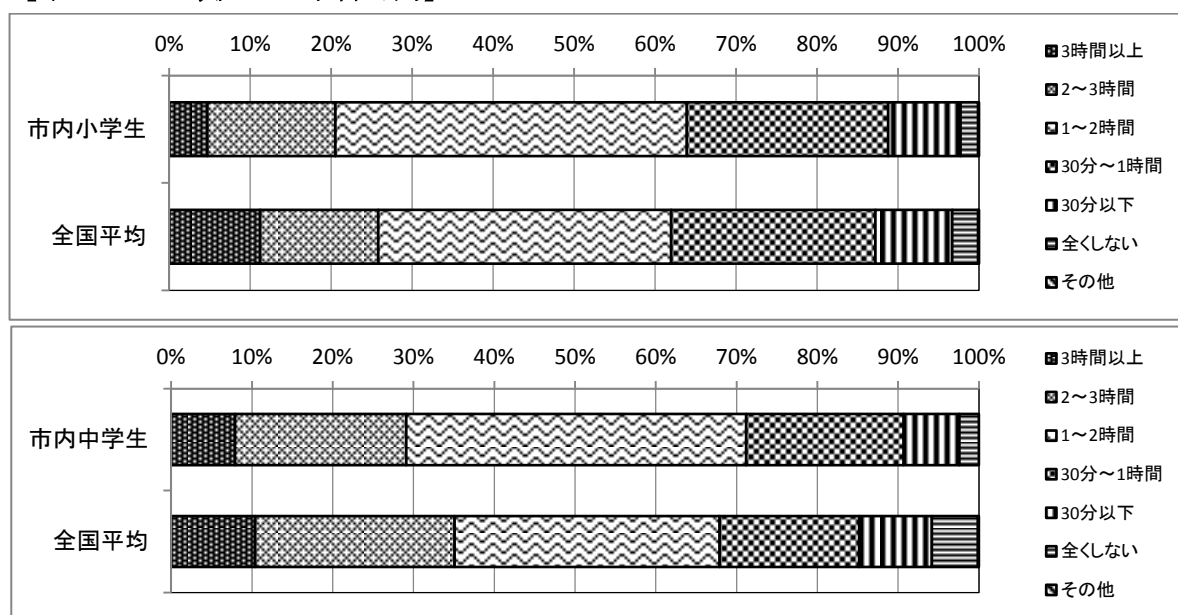
【テレビゲーム（パソコン、携帯、スマートフォン等）の平日1日の使用時間の割合】



本市小中学生では、携帯電話等を所持している児童生徒の増加に伴い、平日1日あたりのパソコン、携帯、スマートフォン等でのゲーム使用割合も増加傾向にあります。ゲームを1時間以上している市内小学生は51.3%（昨年54.4%）、市内中学生は53.8%（昨年43.8%）であり、全国平均と比べるとやや低いですが、半数以上の児童生徒が長時間ゲームをしている状況にあります。また、ゲームに費やす時間が長いほど、教科の正答率が低い状況にあります。

(ウ) 「学習時間に関する項目」

【平日1日の家庭での学習時間】



本市小中学生の平日の家庭学習は、いずれも1時間から2時間が最も高くなっています。家庭学習2時間以上は、小学生20.5%（昨年22.7%）、中学生29.1%（昨年34.7%）で、小中学生ともに家庭学習の時間がやや減少傾向にあり、中学生は小学生以上に減少しています。一方30分以下の割合は小中学生ともにやや増加傾向にあります。

(イ) 「テレビゲームの使用時間」との関連からみても、パソコン、携帯、スマートフォン等のゲームにとらわれている時間の増加に伴って、家庭学習の時間が減少しているとみることができます。保護者の協力を得て、1日の生活時間の有効活用を呼びかけ、「ゲームのスイッチを切る」「携帯電話使用の約束・制限」等の具体的な取り組みを進めていく必要があります。

4 これまでの取り組みの成果

学校質問紙からみた学力調査結果に良好に反映していると思われる要因

(1) 教科面

ア 図書館の利用率、読書の時間の割合が全国より高く、どの学校も新聞や図書館等を利用した授業を重視しています。塩尻市の重点施策に基づいた様々な取り組みの成果が表れてきています。

イ どの学校も市単独配置のICT教育担当指導主事を招き、研修を行うとともに、デジタル教材を活用したり、教育機器等を利用したりする学習を行っています。

ウ 目的に応じて、学級やグループで話し合ったり聞き合ったりする学習をしています。

エ 実生活における事象と関連を図った授業を行っています。

オ 全ての学校が少人数による授業や、複数担任制の授業を行っており、また、児童生徒に合わせた教材を開発して授業を行っています。

(2) 児童生徒支援

ア 学校支援ボランティアの組織を活用し、地域の人や保護者が、学校の多くの諸活動に参加

し、授業サポートなどの支援をしています。今年度の集計を見ても、市内全学校が「教育水準の向上に効果があった」と回答しています。

イ 児童生徒の特性に応じた板書や説明の仕方、教材の工夫など、きめ細かな指導の工夫を行っています。

5 今後に向けて

(1) 塩尻市重点施策の一層の定着に向けて

塩尻市の重点施策「早ね早おき朝ごはん・どくしょ市民運動」に基づく様々な取り組みが、小中学生の規則正しい生活や読書時間の割合の高さとなって表れてきています。また、全小中学校で、「全校一斉読書」の時間を設け継続した読書活動をしてきていることが、長文設問の意味を正しく捉えて解答するなど、教科学習の基本的な力につながっていると考えられます。今後も全市的な読書活動の取り組みを定着させ、継続してまいります。

(2) 学校への支援

学力調査の目的は、児童生徒の現状を把握するとともに、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることにあります。調査結果から考察できる学力は、学力全体の一部である事を踏まえつつ、今回の調査結果を、本市全体の学力向上に活用してまいります。そのために、市教育委員会は、学校、家庭、地域が連携し、一人ひとりの児童生徒への指導が適切に行えるように学校支援をしてまいります。

(3) きめ細かな学習支援

教科に関する調査に成果として表れていると推察される、担任と市費単独加配教員との連携による少人数学習、小集団学習、個別学習などの指導を継続してまいります。

(4) 教員の指導力向上と授業改善

ア 小中学校ともに自分の考えを筋道立てて表現することに課題が見られます。教科学習では、グループによる追究を位置づけ、その教科の特性に応じた言語活動の充実を図っていくことや、児童会や生徒会、全校集会等の企画・運営も含めて特別活動や学校行事等の場を活かし、子どもたちの自主的な活動を保証しつつ、表現力が高まる支援を全校体制で推進してまいります。

イ ここ数年間、活用力の向上を図るために、日常生活に関係付けた学習問題を設定したり、資料を用いて説明したりする学習活動を重視してきました。今後も、日常の全ての教科指導の中で、体験的な活動や自然との触れ合い、目的を明確にした観察・実験、グループ学習等の学び合い、話し合い、教え合いといった学習を継続して一層充実させてまいります。

(5) 指導内容の研究

調査結果を活かす観点から、小中学校で指導の隙間を生み出さないように9年間の系統的な指導内容について検討し、中学校区毎に小中一貫性のある教育を一層推進してまいります。

(6) 「生きる力」を育む

子どもたちが自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら解決する「生きる力」を身につけるため、「体験学習活動」や各校で取り組む「特色ある教育活動」を推進してまいります。

(7) 家庭教育の充実

家族の一員として、家庭での役割を自覚して果たしたり、遊びやゲーム、読書、家庭学習をバランスよく配分したりする、自立的な生活づくりが進むよう、保護者と協力して家庭教育を充実させてまいります。